

平成20年度

シラバス  
(第3学年)

大阪府立西浦高等学校

教科名〔国語〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
国語表現Ⅰ	2単位	第3学年1～6組の選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①自分自身の内面を見つめ、思考を深め、精神的世界を豊かにする。また、その思考したことを整理し、文章によって自己を表現する力を付ける。②論説文を読み取る力をつける。またその学習を通して、自分自身の主張を形成し、それを論理的に表現する力を付ける。③語彙を増やし、文章表現のための基礎知識を学習する。④手紙の書き方、電話での応答、敬語の正しい使い方等、社会生活に必要な表現のスキルを習得する。
使用教科書・副教材等	「15 三省堂 国語表現Ⅰ 008」 桐原書店「高校生必修語彙ノート」 担当教諭作成のプリント

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心 意欲 態度	思考 判断	技能 表現	知識 理解
第1学期	<b>1「わたし」のことを語る</b> ①[演習1] 200字程度で自己アピールを作成する。 ②担当教諭の自己アピール ③レクチャー 題材・材料の選択、主題・構成(tex.pp.1～8) ④[演習2] 自己分析=個性・趣味・進路・将来の夢・現在の生活 etc. 担当教諭の作成したプリントの間に答える形で自己を描き出していく。 ⑤レクチャー 原稿用紙の使い方(tex.見返し前・作成プリント) ⑥[演習3] 原稿用紙の使い方(作成プリント・) ⑦[演習4] 自己アピール再作成 400字程度 ⑧発表 (自宅学習「語彙ノート」 pp.4～19)	4 ・ 5	①いろいろなことを学習する前の白紙の状態以自己アピールを書いてみる。 ②具体的な例に接して考える。 ③自己アピールをするために必要な準備、作業について学習する。 ④自己分析をすることによって自分を対象化し、自分についての具体的な像を描く。 ⑤・⑥自己の内にある思想・情緒を他者に正しく伝えるためのルール等を学び、練習する。 ⑦②～④の過程を経てしっかりとした目的意識を以って作成する。 ⑧大勢の前で自己を語ることで、自己についての認識をより深める。	1. 「学習内容」②は、単に生徒に実例を示すためだけでなく、担当教諭自身が自己を生徒に語ることによって生徒とのコミュニケーションを図る。 2. 担当教諭作成の課題プリント	第1学期 中間 考查	○	○	○	○
	<b>2新聞に投書してみよう</b> ①[演習1] 論説文のサマリーを作成する。 新聞の読者投書欄に掲載された意見、時事問題に対する専門家の意見などを教材とする。 また担当教諭によってサマリーの模範例を提示し、要点を指導する。 ②レクチャー 段落の適切な区分・文の構成・区切り符号・意見文の作成(tex.pp.9～17 pp.87～99・作成プリント) ③[演習2] 複数のテーマから関心のあるものをひとつ選んで意見文を作成する。400～500字程度→清書して印刷、製本 <b>3就職・進学時の面接・作文の練習</b> ①レクチャー 敬語の使い方(tex.pp.35・作成プリント) ②[演習1] 敬語の使い方(作成プリント) ③[演習2]	6 ・ 7 ・ 8	①身近な一般市民の意見の読みとりから始まり、少し高度な評論の要約まで練習して、論理的な文章に慣れる。 ②1～⑤⑥に続いて、表現の技法を習得して、よりの確な表現を目指す。 ③自分の主張を明確にする。またそれを人に伝えるために、論点を整理する。正しい言葉遣いに努める。 ④②社会生活に必要な敬語を正しく習得する。 ③想定される間に対する答を文章化することによって、実際の面接時にすらすらと答えられるように、また想定外の間に	1. まだ自分の主張を明確に持っていない生徒、客観性を獲得していない生徒が多くいると思うが、論説文を多く読む過程でそれらを形成させたい。	第1学期 期末 考查	○	○	○	

	<p>想定した面接官の問に対する答えを作成する。(作成プリント)</p> <p>④よく出題される課題の作文の練習 (自宅学習「語彙ノート」pp.20～39)</p>		<p>対しても応用力を発揮できるように力を付けておく。</p> <p>④③と同様の趣旨で作文の練習をする。</p>					○	○	○	
第2学期	<p><b>4 社会生活に必要な表現のスキル</b></p> <p>①レクチャー 手紙の書き方(tex.28～30 作成プリント) 儀礼的な手紙を書く際に守るべき形式などを学ぶ。</p> <p>②[演習 1] 儀礼的な手紙の例文の模写 卒業祝い・工場見学・採用内定通知等に対する礼状の作成</p> <p>③[演習 2] 電話のかけ方(作成プリント) ホテルのフロント、通販の電話受付、会社の事務員などの役割を想定し、電話での対応をシミュレーションする。 (自宅学習「語彙ノート pp.40～59」)</p>	9 ・ 10	<p>①②友人や恋人に出す手紙は、形式にはさほどこだわる必要はなく、むしろ情緒を重んじる方が良いと思われるが、儀礼的な手紙の場合は、正しい形式にのっとらないと、相手に失礼である。ここでは、必要最小限の形式について学ぶ。</p> <p>③電話は相手の姿が見えない状態で、臨機応変に対応することが求められる。仕事の電話であれば、さらに正しい敬語の使い方も必須である。演習の中でそういった意識を養成したい。</p>	1.③は、理論よりも実践によってより高い能力が養成される性格の学習であるので、できればロールプレイをやりたい。	第2学期 中間 考査				○	○	○
	<p><b>5 情報手帳で伝えよう、学校生活の知恵</b></p> <p>①レクチャー 情報の収集・整理と伝達について (tex.pp.80～86)</p> <p>②[実習 1](グループ作業) 3年間の高校生活を振り返って、後輩に伝えるべき情報を出し合う。 出された情報を分類整理する。</p> <p>③[実習 2] クラス全体で情報を整理し、一冊の情報手帳に仕上げる。</p> <p>④[実習 3] 各自分担して清書し、印刷する。</p> <p><b>6 卒業スピーチ(私の答辞)</b></p> <p>①レクチャー 卒業制作について 表現に関する基本知識 (tex.pp.64)</p> <p>②[演習 1] 卒業スピーチの材料の整理=高校生活で得たもの・成長した面・学校で学ぶ意味・将来の夢・高校生とは etc. (作成プリント)</p> <p>③[演習 2] 卒業スピーチの作成 800字程度 2度原稿を提出して、最終的に印刷用の清書原稿を作る。 (自宅学習「語彙ノート」 pp.60～79)</p>	10 ・ 11 ・ 12	<p>①～④終りに近づいてきた高校生活を整理し、まとめて対象化する。後輩に伝える情報という発想で作業を進めることによって、情報の軽重の判断をしやすくする。最後の学習となる各自の個人的な高校生活の総括(6卒業スピーチ)を準備するものとなるはず。</p> <p>①～③自己分析から始まった国語表現の学習の総仕上げとして位置づけている。3年間の高校生活を距離をおいて見つめなおし、自分の成長の過程を客観的に捉える。時々学習した表現の基本的スキルも駆使して、1人1人の答辞を作成する。</p>	1. グループで作業をすることで、ブレインストーミングを体験させる。	第2学期 期末 考査		○	○			○
第3学期	<p>④[演習 3] 卒業スピーチ集の作製 各自がクラス全員のスピーチを集めたものを、工夫を凝らして製本する。</p> <p>⑤[演習 4] 自分の作製した答辞をクラス全員の前で発表する。 (自宅学習「語彙ノート」 pp.80～107)</p>	1 ・ 2	<p>④製本は国語表現の学習からは一定程度はずれるかもしれないが、自分達の1年間の学習の総仕上げである卒業スピーチを、本にして残しておくことに意義があると思うので、授業の一環に組み入れた。</p> <p>⑤表現の一形態であるスピーチで1年間の学習を締めくくりたい。</p>		学 年 末 考 査				○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 演習時の全ての課題											
【1・2・3学期における評価方法】 ①課題 《軽い課題》提出点→15点満点に換算=平常点 《重い課題》各100点満点で評価→70点に換算 ②定期考査 年3回 各100点満点→15点満点に換算 国語表現は、日々の授業の中で課題に取り組むことが最も重要な学習事項であるので、全体の成績のうち課題評価点を70%とした。その他は、平常点15%、定期考査の得点15%とする。 1・2・3学期の成績の出し方は、内規通り。											

教科名〔国語〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
現代文	3単位	3年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本語の基礎となる、言葉の正しい意味、漢字、基本的な文章表現などを修得する。 ②日本語の文章を正しく読み取る。 ③評論文の学習を通して思索を深め、自己の思想・アイデンティティを形成する。 ④文学作品の学習を通して、人間の思想・情緒・生き方等について学び、人間・人間社会・人生について探求する。 ⑤自己の考えを論理的に正しく他者に伝える能力を身につける。
使用教科書・副教材等	第一学習社『高等学校 現代文』 第一学習社『カラー版新国語便覧』 桐原書店『セレクト漢字検定』 尚文出版『国語必携 パーフェクト演習』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解
第1学期	「誘惑する情報」(評論一) 漢字・難しい語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト	4 ・ 5	人間社会の中で、単に客観的な領域にとどまらない情報の位置づけ・意味について考える。		第1学期中間 考查	○			○
	「ホンモノのおカネの作り方」(評論一) 漢字・難しい語句の意味・内容読み取りプリント・漢字小テスト		ニセガネつくりのエピソードから入って、社会における貨幣の誕生、役割、貨幣を使って行う経済活動の仕組みなどについて学ぶ。自学自習課題について、小テストを実施して達成度を計る(以下同じ)。			○			○
	「七番目の男」(小説三)  『セレクト漢字検定』	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	子どもの時に遭遇した恐怖体験に耐え切れず、その後の人生を、身を潜めて送ってきた男が、長い年月の後、その恐怖と向き合い、克服しえた体験を語る物語を通じて人生を考える。作品を通じて作者の人間に対する優しさにふれさせたい。  夏休みの宿題の一部を授業中にやって、宿題の完成を促す。		第1学期期末 考查	○	○		
第2学期	「身体の個別性」(評論三)  「目に見える制度と見えない制度」(評論三)	9 ・ 10	人間は発達の過程で自己中心性からの脱出を繰り返し、社会性・客観性を身につけ、トータルな世界観を獲得する。しかし究極において個々の身体に付きまとわれている人間が、どのようにして自己中心性から抜け出せるか、世界史の流れも踏まえながら考える。  近代社会において人間相互の関係を合理化し、客観化する法律や制度に対して、歴史の過程で無意識に作られた目に見えない制度もなお慣習や習俗としてわれわれの生活を律している。それらの意味を考える。		第2学期中間 考查		○		○

	「舞姫」(小説二)	10 ・ 11 ・ 12	高校生活の終盤を迎えて、文豪森鷗外のロマンティズムあふれる作品に取り組む。近代日本の黎明期に、国家的使命を背負って留学した青年が、その使命と、自身の恋愛感情との板ばさみになって苦しみついには挫折する物語を通して、時代と近代的自我の確立について考える。文章が難しいのであらずじをつけて学習する。		第2学期期末考査	○	○		
第3学期	「この村が日本で一番」(評論二)	1 ・ 2 ・ 3	グローバル化社会の中で、自分自身が生活している土地にこだわるローカリズムの意味を考える。		学年末考査	○	○		
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で使用したすべてのプリント、ノート、長期休暇中の宿題、その他折々の課題。</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】 定期考査(約70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約30%) 1・2・3学期の成績の出し方は内規通り。</p>									

教科名〔国語〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
古典	2単位	3年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①古典的語彙をできるだけ多く修得する。 ②古典文法の学習を深める。 ③古典的名作を読み、固有の情緒や、描かれた文学的世界を味わう。 ④古典の面白さを発見する。
使用教科書・副教材等	東京書籍『新編古典』 第一学習社『カラー版新国語便覧』 桐原書店『解析古典文法』 大修館書店『全訳古語辞典』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
第1学期	『枕草子』 「うつくしきもの」「中納言参り給ひて」「野分のまたの日こそ」「雪のいと高う降りたるを」  難しい語句の意味を調べる。 脚注も参考にしながら口語訳をする。	4 ・ 5	平安時代の女流文学の第一人者の随筆を味わう。作者固有の感性を込めた語彙に注意し、作品全体に見られる才気を味わう。敬語については敬意の対象を正しく把握する。		第1学期中間考查	○				○
	『大鏡』 「花山天皇の出家」「若き日の道長」  難しい語句の意味を調べる。 脚注も参考にしながら口語訳をする。	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	ドラマチックに、かつリアルに語られた史実を読み味わう。作品の背景にある歴史的事実にも詳しく触れ、作品の持つ迫力をより強く受け止められるようにしたい。		第1学期期末考查	○				○
第2学期	『更級日記』 「門出」「物語」  『蜻蛉日記』 「なげきつつひとり寝る夜」  難しい語句の意味を調べる。 脚注も参考にしながら口語訳をする。	9 ・ 10	日記を通して、平安期の貴族の女性の自我・固有の心理世界の形成を読み取る。  プライドの高い貴族の女性の心理的葛藤を読み取る。		第2学期中間考查		○			○

	『源氏物語』 「若紫」  難しい語句の意味を調べる。 脚注も参考にしながら口語訳をする。	10 ・ 11 ・ 12	源氏物語の中でも比較的内容が単純な「若紫」を読んで、もののあわれに触れる。若紫の無垢で純真な人物像を捉える。時間があれば「桐壺」も読んで、源氏の原点を知る。		第2学期期末考査	○			○
第3学期	『去来抄』 「行く春を」「岩鼻や」「此木戸や」  難しい語句の意味を調べる。 脚注も参考にしながら口語訳をする。	1 ・ 2 ・ 3	俳論を読むことで、俳句の形成過程を知り、また味わいどころを把握する。		学年末考査	○			○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> 授業で使ったすべてのプリント、ノート、長期休暇中の宿題、その他折々の課題。									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> 定期考査(約70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約30%) 1・2・3学期の成績の出し方は内規通り。									

教科名〔 地理歴史 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
日本史 B	2単位	3学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日本史を通史で学ぶことにより、日本の文化・伝統を理解し、わが国の歴史に対する見識を深める。
使用教科書・副教材等	清水書院 高校日本史 B

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	第3編 近世 4章 幕藩体制の動揺  第4編 近代・現代 1章 開国と明治維新 2章 立憲国家の成立と国際関係	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国船の往来と幕府の動揺</li> <li>鎖国はどのように終わったか</li> <li>倒幕運動の展開と大政奉還</li> <li>明治政府の成立過程</li> <li>地租改正と殖産興業政策</li> <li>近隣国との関係と海外侵略</li> <li>国会開設の動きと明治憲法の制定</li> <li>議会政治の始まりと外交関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本史ビデオ「近代国家の誕生」</li> <li>日本史写真パネル</li> </ul>	第1学期中間考査	○			○
	3章 近代産業の発展	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>条約改正運動</li> <li>日清戦争と日本のアジア戦略</li> <li>日露戦争と日本の大陸進出</li> <li>近代産業の成立過程と社会問題の発生</li> <li>西洋文化の受容と大衆文化の広まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本史写真パネル</li> </ul>	第1学期期末考査	○			○
第2学期	4章 第一次世界大戦と日本経済  5章 政党政治の発展	9 ・ 10 ・	<ul style="list-style-type: none"> <li>大正政変と大正時代の日本</li> <li>ヨーロッパ列強と日本の近代化</li> <li>第1次世界大戦と戦後の枠組み</li> <li>大戦景気の日本への影響</li> <li>戦後不況と経済の混乱</li> <li>原敬内閣から大正デモクラシーへ</li> <li>治安維持法と社会運動の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本史写真パネル</li> <li>日本史写真パネル</li> </ul>	第2学期中間考査		○		○



	6章 軍国日本の形成	11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和初期の外交政策</li> <li>世界恐慌と金融政策</li> <li>満州事変と日本の孤立化</li> <li>軍部・右翼の台頭</li> <li>日本の中国侵略とファシズム</li> <li>第二次世界大戦と日本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本史ビデオ「15年戦争の幕開け」</li> </ul>	第2学期期末考査	○			○
第3学期	7章 戦後日本の国家再編 8章 国際社会の動向と高度経済成長	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>太平洋戦争の推移</li> <li>日本の敗戦と戦後の世界体制</li> <li>戦後の民主化政策と日本の復興</li> <li>冷戦と日本の独立</li> <li>自衛力増強と55年体制の成立</li> <li>高度経済成長と国民生活の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本史写真パネル</li> <li>日本史ビデオ「アジア太平洋戦争」</li> </ul>	学年末考査		○		○
<p><b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b>  授業プリントの提出、長期休みには、教科書から全員の課題を課し、欠点者には特別な課題を課す  欠点者や特別支援教育該当者への特別講習</p>									
<p><b>【1・2・3学期における評価方法】</b>  プリント提出、ノート提出、授業態度など平常点を3割、テストの点数を7割とする算出方法で、総合的に評価する。  個人の能力に応じた努力や学習意欲を考慮して、科目の認定をおこなう。</p>									

教科名〔 公民 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
倫理	2単位	3年4. 5組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①生徒が自分の「生き方」・「在り方」について主体的に考えるための基礎的な知識と考え方を身につけさせる。 ②「現代社会における倫理」、「日常生活における倫理」など身近な問題について考える姿勢を育てる。 ③「人間とは何か」について考えるきっかけを与える。
使用教科書・副教材等	教育出版『新 倫理』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	・人間を見つめて(1)	4 ・ 5	・古代・中世の人間観の歴史を理解するために、古代ギリシアの思想、ユダヤ教とキリスト教の思想、イスラム教の思想について学ぶ。 ・東洋の人間観の歴史を理解するために、古代インドの思想と仏教の思想、儒教思想・老荘思想などの中国の古典思想、近代以前の日本の思想について学ぶ。	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。	第1学期中間調査	○	○	○	○	
	・人間を見つめて(2)	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・近代の人間観を理解するために、ルネサンス・宗教改革・経験論・合理論・啓蒙思想・功利主義などの西洋の近代思想、実存主義・社会主義・その他の現代の思想について学ぶ。 ・世界とつながる日本の思想を理解するために、西洋近代思想の受容・近代思想の展開・独自の思想などの近代の日本の思想について学ぶ。	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。	第1学期期末調査	○	○	○	○	
第2学期	・自己への問い  ・他者とともに生きる	9 ・ 10	・自分自身を見つめさせるために、子どもと大人、生と死、男と女、仕事と勉強の意味などについて学ぶ。 ・私たちを取りまくものについて考えさせるために、病気、老い、死などについて学ぶ。 ・人とのかかわりについて考えさせるために、現代の社会、家族、高齢化などについて学ぶ。 ・情報がつなぐものについて考えさせるために、情報化社会、情報倫理について学ぶ。	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。 ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。	第2学期中間調査	○	○	○	○	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのかかわりのなかで生きる意味を考えさせるために、民主主義、正義、公共性などについて学ぶ。</li> </ul>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と人間</li> <li>・共存する社会</li> </ul>	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の意味について考えさせるために、生命工学と生命倫理、死生観などについて学ぶ。</li> <li>・環境について考えさせるために、自然観、科学技術と倫理、環境問題と環境倫理などについて学ぶ。</li> <li>・伝統の継承と発展について考えさせるために、伝統文化を受け継ぐ意味、日本の外来思想の受容などについて学ぶ。</li> <li>・地球社会の中の私たちについて考えさせるために、地球社会、国際化、異文化理解などについて学ぶ。</li> <li>・人類と福祉について考えさせるために、多文化共生、平和と人権などについて学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。</li> <li>・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。</li> </ul>	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間にとって大切なもの</li> </ul>	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間にとって大切なものについて考えさせるために、目に見えないものの大切さ、芸術とその見方、見えないものへの信頼などについて学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する。</li> <li>・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる。</li> </ul>	学年末考査	○	○	○	○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・提出プリント</li> </ul>									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・提出物</li> <li>・授業への参加態度</li> </ul>									

教科名〔 公民 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
政治・経済	2単位	3年全クラス	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本と国際経済の大まかな仕組みを理解する。 ②現代の日本と世界が抱える様々な経済の問題について学ぶ。 ③日本と世界がかかえるさまざまな経済問題に対し、その対処策を考え、自分なりの意見を持てるようにする。 ④雇用に関わる基本的な法律知識を身につける。
使用教科書・副教材等	第一学習社『高等学校新政治経済』 プリント教材・ビデオなど

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	① 現代の経済 資本主義のしくみ 資本主義と社会主義  価格決定のしくみについて 市場経済の機能と限界	4 ・ 5	資本主義経済の成立の歴史と政府の役割の変化を理解する。 社会主義経済の特徴と現状を理解する。 価格決定のしくみを学び、寡占などによる市場の限界を考える。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第1学期中間考查	○	○			○
	景気変動と経済成長  財政の仕組みとはたらき 租税と国債	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	経済指標を知り、景気変動と経済成長の基本的なしくみを学ぶ。 税がはたす役割を理解する。 家計・企業・政府の関わりを考える。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第1学期期末考查	○	○			○
第2学期	金融市場 日本銀行と金融政策  ② 現代経済の諸課題 ・日本経済のしくみ ・日本経済と国際経済	9 ・ 10	金融市場の役割を理解する。 日本銀行と金融政策の具体的な内容を理解する。  ・日本経済の基本的な仕組み・特徴について ・日本経済の動向について学ぶ。 ・日本と国際経済のつながりについて学ぶ。 ・経済のグローバル化について考える。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第2学期中間考查	○	○			○

	<b>3 労働と法律</b> ・労働法規 ・労働契約と雇用 ・雇用に関わる基本的な知識について	11 12	・労働三法、その他の労働法規について学ぶ。 ・労働契約・就業規則について学ぶ。 ・賃金・労働時間・休日について学ぶ。 ・解雇の要件について学ぶ。 ・社会保険・労働保険・税金について学ぶ。 ・母性保護・育児休暇・介護休暇について学ぶ。	教科書および プリント使用 必要に応じて ビデオ教材使用	第 2 学 期 期 末 考 査	○	○		○
第 3 学 期	・労働問題と労働組合 ・雇用をめぐる諸問題	1 2	・労働をめぐる諸問題について学ぶ。 ・労働運動・労働組合について学ぶ。 ・現在の日本の雇用情勢と、関連する諸問題について学ぶ。	教科書および プリント使用 必要に応じて ビデオ教材使用	学 年 末 考 査	○	○	○	○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> ・ノート ・提出プリント ・その他の課題									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> ・定期考査の得点 ・提出物の内容・提出状況 ・授業への参加態度、学習意欲									

教科名 [ 数学 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学A	3単位	3年 1～6組 文系	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①場合の数と確率の学習を実際の例を示して見て、具体的に把握する。 ②論理的な思考を養うために公式の扱い方を学ぶ。 ③平面図形の三角形と円の性質を実際に描いてみて、視覚から把握する。 ④図形の簡単な性質を理解する。 ⑤事柄の真偽を判断する方法を学ぶ。
使用教科書・副教材等	教科書：第一学習社「高等学校 新数学A」 副教材：第一学習社「ネオパル 新数学A」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考査範囲	評価の観点のポイント				
						態度・関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	1章 場合の数と確率 1節 集合 1.集合  2集合の要素の個数  2節 順列, 組み合わせ 1 和の法則・積の法則  2順列  3いろいろな順列	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分集合、共通部分、和集合、全体集合、補集合、空集合について学習する。</li> <li>いろいろの集合の個数について考える。</li> <li>場合の数の和の法則と積の法則について学習する。</li> <li>順列の基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。</li> <li>順列の応用として重複順列や円順列の考え方や計算方法を学習する。</li> </ul>	課題プリント 副教材	第1学期 中間 考査	○				○
	4組合せ  5二項定理  3節 確率 1 事象と確率  2 確率の計算  3 排反事象の確率  4 余事象の確率	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>組合せの基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。</li> <li>組合せの応用として道順などの考え方を学習する。</li> <li>二項定理の考え方や計算方法を学習する。。</li> <li>試行、事象、確率の意味を学習する。</li> <li>順列や組合せを用いた確率の計算の練習をする。</li> <li>排反事象の意味を理解し、それを用いた計算の練習をする。</li> <li>余事象を用いる場合を理解し、それを用いた計算の練習をする。</li> </ul>	課題プリント 副教材	第1学期 期末 考査	○				○

第2学期	5 独立な試行の確率 6 反復試行の確率 7 期待値	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立試行の意味を理解し、それをを用いた計算の練習をする。</li> <li>反復試行の公式の考え方を理解し、それをを用いた計算の練習をする。</li> <li>期待値の計算の仕方を理解し、その練習を行う。</li> </ul>	課題プリント 副教材	第2学期 中間 考査	○	○	○	○
	2章 平面図形と論理 1節 三角形の性質 1 三角形と線分の比 2 三角形の重心 3 三角形の外心 4 三角形の内心		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の内角の二等分線と辺との関係を調べる。</li> <li>三角形の各中線が一点で交わり、つりあいを三角形の図形から理解する。</li> <li>垂直二等分線を描いてみる。三角形の各辺の垂直二等分線が一点で交わることを理解する。</li> <li>三角形の各内角の二等分線が一点で交わることを理解する。</li> </ul>			○	○	○	○
第2学期	2節 円の性質 1 円周角の定理 2 円に内接する四角形 3 接線と弦のつくる角 4 方べきの定理 5 2つの円 まとめ	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周角の定理を理解し、またその逆も理解する。</li> <li>四角形と円との関係を把握し、円に内接する四角形の性質を知る。</li> <li>円の接線が弦との間につくる角と円周角との関係を調べる。</li> <li>方べきの定理の内容を理解する。</li> <li>2つの円の位置関係を図示して把握し、その関係を関係式で表す。</li> <li>総合的に図形を取り扱う。</li> </ul>	課題プリント 副教材	第2学期 期末 考査	○	○	○	○
	3節 命題と証明 1 命題と集合 2 必要条件・十分条件 3 いろいろな証明法		1 ・ 2 ・ 3			<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄が正しいか正しくないかを判断するときに必要となる考え方や用語を学習する。</li> <li>必要、十分という用語を正しく使用して、事柄の真偽を判断する。</li> <li>証明方法として、間接的に証明する方法を学習する。</li> </ul>	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業のノート・授業に用いたプリント・課題プリント・副教材の問題集・長期休暇の宿題など。									
【1・2・3学期における評価方法】 考査・提出物の内容・授業を受ける態度などから総合的に評価する。									

教科名 [ 数学 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学A	2単位	3年 1組 理系	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①場合の数と確率の学習を実際の例を示して見て、具体的に把握する。 ②論理的な思考を養うために公式の扱い方を学ぶ。 ③平面図形の三角形と円の性質を実際に描いてみて、視覚から把握する。 ④図形の簡単な性質を理解する。 ⑤事柄の真偽を判断する方法を学ぶ。
使用教科書・副教材等	教科書：第一学習社「高等学校 新数学A」 副教材：第一学習社「ネオパル 新数学A」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度・関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	1章 場合の数と確率 1節 集合 1.集合  2集合の要素の個数  2節 順列, 組み合わせ 1 和の法則・積の法則  2順列  3いろいろな順列	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分集合、共通部分、和集合、全体集合、補集合、空集合について学習する。</li> <li>いろいろの集合の個数について考える。</li> <li>場合の数の和の法則と積の法則について学習する。</li> <li>順列の基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。</li> <li>順列の応用として重複順列や円順列の考え方や計算方法を学習する。</li> </ul>	課題プリント 副教材 ・発展問題で応用力をつける	第1学期中間考查	○				○
	4組合せ  5二項定理  3節 確率 1 事象と確率  2 確率の計算  3 排反事象の確率  4 余事象の確率	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>組合せの基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。</li> <li>組合せの応用として道順などの考え方を学習する。</li> <li>二項定理の考え方や計算方法を学習する。。</li> <li>試行、事象、確率の意味を学習する。</li> <li>順列や組合せを用いた確率の計算の練習をする。</li> <li>排反事象の意味を理解し、それを用いた計算の練習をする。</li> <li>余事象を用いる場合を理解し、それを用いた計算の練習をする。</li> </ul>	課題プリント 副教材 ・発展問題で応用力をつける	第1学期期末考查	○		○		○



第2学期	5 独立な試行の確率 6 反復試行の確率 7 期待値	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立試行の意味を理解し、それをを用いた計算の練習をする。</li> <li>反復試行の公式の考え方を理解し、それをを用いた計算の練習をする。</li> <li>期待値の計算の仕方を理解し、その練習を行う。</li> </ul>	課題プリント 副教材 ・発展問題で応用力をつける	第2学期 中間 考査	○	○	○	○
	2章 平面図形と論理 1節 三角形の性質 1 三角形と線分の比 2 三角形の重心 3 三角形の外心 4 三角形の内心		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の内角の二等分線と辺との関係を調べる。</li> <li>三角形の各中線が一点で交わり、つりあいを三角形の図形から理解する。</li> <li>垂直二等分線を描いてみる。三角形の各辺の垂直二等分線が一点で交わることを理解する。</li> <li>三角形の各内角の二等分線が一点で交わることを理解する。</li> </ul>			○	○	○	○
第2学期	2節 円の性質 1 円周角の定理 2 円に内接する四角形 3 接線と弦のつくる角 4 方べきの定理 5 2つの円 まとめ	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周角の定理を理解し、またその逆も理解する。</li> <li>四角形と円との関係を把握し、円に内接する四角形の性質を知る。</li> <li>円の接線が弦との間につくる角と円周角との関係を調べる。</li> <li>方べきの定理の内容を理解する。</li> <li>2つの円の位置関係を図示して把握し、その関係を関係式で表す。</li> <li>総合的に図形を取り扱う。</li> </ul>	課題プリント 副教材 ・発展問題で応用力をつける	第2学期 期末 考査	○	○	○	○
	3節 命題と証明 1 命題と集合 2 必要条件・十分条件 3 いろいろな証明法		<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄が正しいか正しくないかを判断するときに必要な考え方や用語を学習する。</li> <li>必要、十分という用語を正しく使用して、事柄の真偽を判断する。</li> <li>証明方法として、間接的に証明する方法を学習する。</li> </ul>			○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業のノート・授業に用いたプリント・課題プリント・副教材の問題集・長期休暇の宿題など。									
【1・2・3学期における評価方法】 考査・提出物の内容・授業を受ける態度などから総合的に評価する。									

教科名 [ 数学 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学演習	4単位	3学年1組理系	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	① 数学Ⅰ・Ⅱの基本的な内容の復習から、応用的な内容までを、問題演習を通じて学習する。 ② 計算力と思考力の向上をめざす。 ③ テーマ毎に広い視野で問題を取り組む姿勢を養う。
使用教科書・副教材等	数研出版 テーマ数学Ⅰ完成ノート「方程式と不等式」、テーマ数学Ⅰ完成ノート「2次関数」 テーマ数学Ⅰ完成ノート「図形と計量」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	微分と積分  方程式と不等式	4 ・ 5	・微分の応用（関数の最大・最小について） ・積分とその応用 （不定積分、不定積分の計算、定積分、面積） 基本的な計算ができ、微分と積分の関係が理解できる。 ・多項式の和・差・積、展開の公式、因数分解、 を中心に基本的な計算が確実にできるように練習する。また、式の書き方や“=”の使い方などを正しく身につける。	講義と演習プリントを中心。毎時間提出  テーマ数学Ⅰ完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。	第1学期 中間 考査	○	○	○	○
	方程式と不等式		6 ・ 7	・数を拡張させて、根号を含む式の計算などでもできるようにする。さらに、方程式や不等式に発展させて解けるようにしたい。 ・文章題の内容を的確に把握できるように応用力を身につける。		テーマ数学Ⅰ完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。	第1学期 期末 考査	○	○
第2学期	2次関数	8 ・ 9 ・ 10	・関数の概念を理解させ、2次関数の性質を十分習得させ、様々な問題に対応できるようにする。 ・グラフが書けるように何度も練習する。	テーマ数学Ⅰ完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。	第2学期 中間 考査	○	○		○

	2次関数  図形と計量  三角関数	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフを使っていろいろの問題が解けるようにする。</li> <li>・三角比、三角比の相互関係、三角比の拡張の基本的事項を理解させる。</li> <li>・三角関数のグラフが書けること。加法定理、三角関数の合成の基本的事項を理解させる。</li> </ul>	<p>テーマ数学Ⅰ完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。</p> <p>講義と演習プリントを中心。毎時間提出</p>	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	図形と計量  生活にある数学	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形、立体図形の復習をして、総合的に図形を理解させる。</li> <li>・まとめとして、身近な生活の中にある題材を数学的に捉えて応用できる力を養う。</li> </ul>	<p>テーマ数学Ⅰ完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。</p> <p>講義と演習プリントを中心。毎時間提出</p>	学年末考査	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>各学期とも、授業中の教材やプリントなどを提出させる。</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <p>小テスト・定期考査の成績・提出物の内容・授業態度・個人の発表などを総合的に評価する。</p>									

教科名〔 理科 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
物理Ⅱ	4単位	3学年理系 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理Ⅰの内容をさらに発展させてより深く物理的思考を身につけるようにする。
使用教科書・副教材等	高等学校物理Ⅱ(第一学習社)

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	第Ⅱ章 電気と磁気 第一節 電場と電位 電場 電位 コンデンサー	4 ・ 5	電場、電位の内容を理解し、クーロンの法則が使えるようになる。  コンデンサーの原理、接続に関して理解できるようになる。		第1学期中間考査		○		○
	第二節 電流と磁場 電流					○	○		○
	第二節 電流と磁場 磁場 電流が受ける力	6 ・	磁石、磁場、磁力線に関して理解する。  ローレンツ力について理解する。		第1学期期末考査	○	○		○
	第三節 電磁誘導と交流 電磁誘導 交流 電磁波	7 ・ 8	電磁誘導の法則に関して理解し、問題が解けるようになる。			○	○		○
第2学期	第Ⅲ章 物質と原子 第一節 原子、分子の運動 物質の三態 気体の法則 気体の分子運動 気体の状態変化	9 ・ 10	大気圧、気体の法則について理解し、問題が解けるようになる。  熱力学第一法則に関して理解できるようになる。		第2学期中間考査	○	○		○
	第Ⅳ章 原子と原子核 第一節 粒子性、波動性と原子の構造	10 ・	光が波の一種である事を理解する。		第2学期期末考査	○			○
	第二節 原子核と素粒子 原子核の構造	11 ・ 12	放射線の種類、原子核反応に関して理解する。			○			○

第3学期	第I章 力と運動 第一節 平面の運動と運動量 運動量と力積 運動量の保存	1 ・ 2 ・ 3	運動量と力積の関係について理解する。  運動量保存の法則が使えるようになる。				○				○
	<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】 課題プリント(ほぼ毎時間) 夏休み, 冬休み課題 実験レポート など</p>										
<p>【1・2・3学期における評価方法】 定期テスト, 平常点から総合的に評価する。</p>											

教科名〔理科〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
化学 I	3単位	3年1組 (理系選択)	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①化学に対する総合的理解を深める。 ②計算問題に対応できる能力を身につける。 ③実験により科学的な物の見方を養う。
使用教科書・副教材等	第一学習社『高等学校改訂新化学 I』『改訂版スクエア最新図説化学』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考 ・判断	技能 ・表現	知識 ・理解
第1学期	I 物質のなりたち 1 物質とその構成要素  2 物質の構成粒子と物質質量	4 ・ 5	物質の構成成分の検出方法、その成分の最小の単位粒子・原子についての理解を深める。  物質を形作る化学結合の種類と、特徴を理解する。  原子・分子などの量の表し方を学び、計算に習熟する。	提出物、出欠、授業に取り組み態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第1学期中間調査	○	○	○	○
	II 物質の変化 1 物質の変化とエネルギー  2 酸・塩基と塩	5 ・ 6 ・ 7	化学変化を反応式として表し、それに伴うエネルギーの出入りを理解する。  酸・塩基の性質が同じ尺度で表されること、中和反応での量的関係を学び理解する。	提出物、出欠、授業に取り組み態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第1学期期末調査	○	○	○	○
第2学期	3 酸化還元反応  III 無機物質 1 非金属元素の単体と化合物  2 金属元素の単体と化合物	8 ・ 9 ・ 10	酸化還元反応の本質を学び、電池や電気分解の理解へと進む。  金属以外の単体と主な化合物について、性質や反応を学習する。  典型元素の金属・主な遷移元素の金属について、単体や化合物の特性と反応を学習する。	提出物、出欠、授業に取り組み態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第2学期中間調査	○	○	○	○

	IV 有機化合物 1 有機化合物の特徴と分類  2 脂肪族化合物	10 ・ 11 ・ 12	有機化合物の特性を学び、さらにその化学式の決め方を学習する。  脂肪族化合物の特性や反応について、食酢やセッケンなど生活に関係深い物質を中心に学ぶ。	提出物, 出欠, 授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	3 芳香族化合物	1 ・ 2 ・ 3	芳香族化合物の特性や反応について、脂肪族化合物の比較をしながら学習する。	提出物, 出欠, 授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業中に配布するプリント 実験のレポート 長期休業中の課題 など									
【1・2・3学期における評価方法】 考査評価 宿題 配布プリント等の提出物評価 出欠, 授業に取り組む態度の評価									

教科名〔理科〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
生物Ⅱ	3単位	3学年1～6組 文系選択・理系選択	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	① 生物や生命現象についての基本的概念・原理・法則を理解する。 ② 実験・観察を行い、生物を含む自然に対する関心や探求心を高める。 ③ 実験を安全・性格に行う技能と、結果をまとめ考察する能力を習得する。 ④ 上記を通じ、身の回りの自然現象を生物学的に探求する態度・科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	大日本図書 生物Ⅱ プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解
第1学期	I タンパク質と生物体の機能 1 生物体内の化学反応と酵素 2 物質とエネルギー代謝 3 タンパク質の機能	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命活動の本質が化学反応（物質代謝とエネルギー代謝）であり、それを円滑に行うために酵素が重要な役割を果たしていることを理解する。</li> <li>生物体に不可欠な有機物のうち、特にタンパク質が担う働きを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験観察</li> <li>実験観察のスケッチおよびレポート内容。</li> <li>随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。</li> </ul>	第1学期中間考查	○	○	○	○
	II 遺伝情報とその発現 1 遺伝子からタンパク質へ 2 形質発現の調節と形態形成 3 バイオテクノロジー	5 ・ 6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の本体がDNAという物質であること、その遺伝情報に基づいて形質が発現する仕組みを理解する。</li> <li>発展めざましいバイオテクノロジーが生活のどのような場面に利用されているかを知り、その利点・問題点を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験観察</li> <li>実験観察のスケッチおよびレポート内容。</li> <li>随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。</li> </ul>	第1学期期末考查	○	○	○	○
第2学期	III 生物の分類と進化 1 生物の分類 2 生物の系統 3 生物界の変遷	8 ・ 9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物を分類する方法と、系統に基づく分類の体系を学ぶことで、生物多様性を理解する。</li> <li>地球の歴史とともに生命が歩んできた進化の道筋を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験観察</li> <li>実験観察のスケッチおよびレポート内容。</li> <li>随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。</li> </ul>	第2学期中間考查	○	○	○	○



	4 進化のしくみ  IV 生物の集団 1 個体群の構造と維持 2 生物群集と生態系	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>進化のしくみについてのさまざまな学説について学び、進化の過程における生物と環境の関係を考察する。</li> <li>生態系の構成要素である生物の集団がどのような規則性で成り立っているか、環境とどのように関係しているのかを学び、身近な生物を生態学的視点で観察できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験観察</li> <li>実験観察のスケッチおよびレポート内容。</li> <li>随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。</li> </ul>	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	3 生態系とその保全  V 課題研究	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトも生態系の一構成要素であることを理解し、さまざまな環境問題にどのように対処していくべきかを考察する。</li> <li>選択したテーマについて、資料を収集・検索し、自分なりの考えをレポートとしてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験観察</li> <li>実験観察のスケッチおよびレポート内容。</li> <li>随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。</li> </ul>	学年末考査	○	○	○	○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> 授業中に配布する学習プリント、実験実習のレポート、夏期・冬期休暇中の宿題等。									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> 考査評価、課題プリントへの取り組み状況、ノートチェック、授業態度などを総合評価。									

教科名〔理科〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
地学Ⅰ	3単位	3学年 地学Ⅰ選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	地球や宇宙に関する様々な自然現象を科学的に理解する。
使用教科書・副教材等	高等学校・地学Ⅰ 第一学習社 [183 第一地Ⅰ005] 手作りのプリント

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	第1章 わたしたちのすむ地球[20] 1.生命の星－地球[3]  2.地球の内部[3]  3.火山と地震 (1)火山[4]	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽系についての概略を説明し、地球上に生命がなぜ生じたかについて考える。</li> <li>地球の形と大きさについて理解する。</li> <li>プレートテクトニクスの考え方を理解する</li> <li>火成岩について理解する</li> <li>火山の生じるしくみを理解する。</li> <li>溶岩の性質と火山噴火の様式、火山の形とを関連付けて理解する。</li> <li>日本と世界の火山帯について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主にプリントを中心に授業を進め、空欄や問いを入れて考えさせ書き込ませる。</li> <li>プリント</li> <li>プリントの提出</li> </ul>	第1学期中間調査	○	○	○	○
	(2)地震[6]  (3)地震波による地球の内部構造の推定[4]	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震が生じる仕組みを考えさせ、震度やマグニチュードについて理解する。</li> <li>地震波について理解する。</li> <li>プレートの動きと地震の起き方を、実習の作業も入れながら考える。</li> <li>地球の内部構造が地震波により推定される仕組みを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントによる作業</li> <li>プリント</li> <li>プリントの提出</li> </ul>	第1学期期末調査	○	○	○	○
第2学期	第4章 宇宙の姿[20] 1. 地球の自転と公転に伴う天体の動き (1)太陽と恒星の見かけの動き[6]  (2)月について[1]	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の自転に伴う恒星の見かけの動きを考える。</li> <li>地球の自転、公転に伴う太陽の見かけの動きを考える。</li> <li>月の運動を考えさせ、日食や月食についても理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントに問いの形式で考えさせながら書き込ませる。</li> </ul>	第2学期中間調査	○	○	○	○

	(3)地球の自転と公転の証拠[3]		・地球の自転や公転の証拠を考える。	・プリントの提出		○		○	○
	(4)時刻について[2] (5)惑星の運動[3]		・時刻をどのように決めているかを考える。 ・惑星の見かけの動きや、会合周期、公転周期について考えさせ、ケプラーの法則についても少し学ぶ。	・別のプリントで演習形式で考えさせる。		○	○	○	
	2. 恒星の性質と進化 (1) 恒星の明るさと距離[2]	10 ・ 11 ・ 12	・恒星の明るさや絶対等級について学び、恒星までの距離の求め方についても簡単に学ぶ。	・プリントに問いの形式で書き込ませる。	第2学期 期末 考査			○	○
	(2)恒星の誕生と進化[3]		・恒星の誕生と終末。ブラックホールについて学ぶ。	・プリントとビデオを見せて、感想文を書かせる。 ・プリント提出		○		○	○
第3学期	地球環境の破壊について[4]	1 ・ 2 ・ 3	・オゾン層の破壊、地球の温暖化の問題、酸性雨の問題をテーマに選び、環境問題について考える。	プリント	学年 末 考査	○		○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業用のプリントを全部提出。</li> <li>・感想文や実習用のプリントを提出。</li> <li>・1.2.学期の終わりに、プリントの内容から課題を作り、それを各学期の初めに提出。</li> </ul>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント類や課題、基礎学力テストの点数および授業中の質問にたいする答え方等を平常点として3割、各学期の中間と期末考査の平均を7割として100点満点で評価する。</li> </ul>									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
男子 体育	1単位	3学年1～6組男子	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①授業を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深めさせる。 ②自主的・自発的に学習する態度を育成する。・健康や体力についての理解を深める。 ③生涯を通じて、自分にあったスポーツを楽しむことができる基礎作りを行う。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	①オリエンテーション	4 ・ 5	年間計画、目標、心構えを理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・役割分担・体ほぐしの運動などができるようになる。		第1学期中間考查	○			○
	②③シャトルラン		新体力テストの20mシャトルランテストを行い、総回数から最大酸素摂取量を推定する。また過年次と比較し、生徒個人の体力を診断する。			○			
	①バレーボール(オリエンテーション)		授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。					○	○
	②③バレーボール実技	6 ・ 7 ・ 8	基本技術・応用技術の習得 ・パス ・フットワーク ・サービス・トス・スパイク・レシーブ・ブロック・簡易ゲーム		第1学期期末考查	○	○		
	④⑤基本練習								
	⑥⑦ゲーム練習と審判	6 ・ 7 ・ 8	基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようにする。		第1学期期末考查	○	○		
	⑧⑨⑩ゲーム		ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。					○	

第2学期	<p>※8月下旬から9月第3週あたりまで水泳授業となる</p> <p>①バスケットボール(オリエンテーション)</p> <p>②③基本練習バスケットボール実技</p>	9・10	<p>授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。</p> <p>・パス・パス・ドリブル・シュート・簡易ゲーム</p>		第2学期中間考査	○				
	<p>④⑤バスケットボール実技</p> <p>⑥⑦ゲーム練習と審判</p> <p>⑧⑨⑩ゲーム</p>	10・11・12	<p>基本技術・応用技術の習得</p> <p>基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようになる。</p> <p>ルールを理解する。</p> <p>ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。</p> <p>ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。</p> <p>ゲームを楽しむなかで技術と戦術をみがきより精度を高める。</p>		第2学期期末考査			○	○	○
第3学期	①②③フットサル・バスケット・ソフトバレー実技	1・2・3	球技の実践を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深める。		学年末考査	○		○		
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>各学期末に班ノートを提出させる。</p>										
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な技能がどの程度修得されているか。</li> <li>授業中でのゲームスキル、及び積極性・協力心・態度などで評価する。</li> <li>基本技能、応用技能ができているか・ゲームコントロールができているか・みんなと協力しているか・ルールを正しく理解しているか。</li> <li>自分の技能に応じてフォーメーションを工夫できているか。</li> </ul>										

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
男子 体育 水泳	2単位	3学年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①水泳の特性を理解し、3泳法を泳ぎきる技能を身につける。 ②3泳法をマスターし、50メートルの個人メドレーを泳ぎ切る。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期		4 ・ 5			第1学期中間考査				
	①オリエンテーション ②③泳法チェック 3泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）をチェックし悪いところを見つけだす 各泳法の練習をさせ生徒の技能を把握する	6 ・ 7 ・ 8	授業の進め方を説明し、見学について・更衣について・補習等について理解する。  泳法を途中で変える練習をする。		第1学期期末考査	○		○	○
	④⑤コンビネーション  ⑥⑦⑧3泳法を泳ぐ1		スタート練習 スピードを高める。 持久力を高める。					○	

第2学期	⑨⑩3泳法を泳ぐ2 ⑪⑫タイム泳法テスト	9 ・ 10	よりスピードを高める。 より持久力を高める。 50メートルを泳ぐタイム及び3泳法のフォームを点検する(各泳法のフォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか)。 タッチ後(ターン)スムーズに方向をかえ、壁がけれているか。		第2学期中間考査			○ ○	
		10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期		1 ・ 2 ・ 3			学年末考査				
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> ・3泳法がきちんと泳げているかどうか・積極的に練習に打ち込み技能の進展があるか・フォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか・スピード及び持久力を高めることができたか。									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
女子 体育	1単位	3学年1～6組男子	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①授業を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深めさせる。 ②自主的・自発的に学習する態度を育成する。・健康や体力についての理解を深める。 ③生涯を通じて、自分にあったスポーツを楽しむことができる基礎作りを行う。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	①オリエンテーション  ①バスケットボール(オリエンテーション)  ②③基本練習バスケットボール実技 ④⑤バスケットボール実技	4 ・ 5	年間計画、目標、心構えを理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・役割分担・体ほぐしの運動などができるようになる。  授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。  ・パス・パス・ドリブル・シュート・簡易ゲーム 基本技術・応用技術の習得		第1学期中間考查	○  ○  ○			○  ○
	⑥⑦ゲーム練習と審判  ⑧⑨⑩ゲーム	6 ・ 7 ・ 8	基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようになる。  ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。  ゲームを楽しむなかで技術と戦術をみがきより精度を高める。		第1学期期末考查	○  ○			○



第2学期	<p>※8月下旬から9月第3週あたりまで水泳授業となる</p> <p>①フットサル(オリエンテーション)</p> <p>②③フットサル実技</p> <p>④⑤基本練習</p>	9・10	<p>授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。</p> <p>基本技術・応用技術の習得 ・パス ・フットワーク ・シュート、ヘディング、トラップ、簡易ゲーム</p>		第2学期中間考査	○				
	<p>⑥⑦ゲーム練習と審判</p> <p>⑧⑨⑩ゲーム</p>	10・11・12	<p>基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようにする。</p> <p>ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。</p>		第2学期期末考査			○	○	○
第3学期	①②③フットサル・バスケット実技	1・2・3	球技の実践を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深める。		学年末考査	○		○		
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>各学期末に班ノートを提出させる。</p>										
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能がどの程度修得されているか。</li> <li>・授業の中でのゲームスキル、及び積極性・協力心・態度などで評価する。</li> <li>・基本技能、応用技能ができていないか・ゲームコントロールができていないか・みんなと協力しているか・ルールを正しく理解しているか。</li> <li>・自分の技能に応じてフォーメーションを工夫できているか。</li> </ul>										

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
女子 体育 水泳	2単位	3学年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①水泳の特性を理解し、3泳法を泳ぎきる技能を身につける。 ②3泳法をマスターし、50メートルの個人メドレーを泳ぎ切る。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期		4 ・ 5			第1学期 中間 考査				
	①オリエンテーション ②③泳法チェック 3泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）をチェックし悪いところを見つけだす 各泳法の練習をさせ生徒の技能を把握する	6 ・ 7 ・ 8	授業の進め方を説明し、見学について・更衣について・補習等について理解する。  泳法を途中で変える練習をする。			○		○	○
	④⑤コンビネーション  ⑥⑦⑧3泳法を泳ぐ1		スタート練習 スピードを高める。 持久力を高める。			第1学期 期末 考査		○	○

第2学期	⑨⑩3泳法を泳ぐ2 ⑪⑫タイム泳法テスト	9 ・ 10	よりスピードを高める。 より持久力を高める。 50メートルを泳ぐタイム及び3泳法のフォームを点検する(各泳法のフォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか)。 タッチ後(ターン)スムーズに方向をかえ、壁がけれているか。		第2学期中間考査			○ ○	
		10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期		1 ・ 2 ・ 3			学年末考査				
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> ・3泳法がきちんと泳げているかどうか・積極的に練習に打ち込み技能の進展があるか・フォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか・スピード及び持久力を高めることができたか。									

教科名〔保健体育〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
女子 体育 ダンス	1単位	3学年1～6組女子	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①現代的なリズムの音楽に合わせて基本のステップができる ②グループでオリジナルな作品づくりができる ③発表会を企画・運営できる
使用教科書・副教材等	スポーツガイドダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	◎ オリエンテーション  ◎ウォーミングアップ ◎アイソレーション ◎基本のステップを練習する  ◎基本のステップを組み合わせて、一連の流れが踊れるようになる(テスト)	4 ・ 5	◎ オリエンテーション 授業の進め方について理解する。 ◎ ダンスの特性について理解する。 ◎ 体の可動範囲を広げる。  ◎ 基本のステップを覚え、正確にできるようになる。		第1学期中間考查	○			○
	◎グループで発表する(テスト)  ◎水泳(シラバス水泳参照)	6 ・ 7 ・ 8	◎ ミニ発表会をする。 ◎ 鑑賞の態度を養う。  ◎ 水泳(シラバス水泳参照)		第1学期期末考查	○	○	○	
第2学期	◎水泳(シラバス参照)  ◎ オリジナルな作品づくりをする	9 ・ 10	◎水泳(シラバス水泳参照)  ◎ グループをつくり(8人くらいが基本)、役割分担する。 ◎ 作品づくりについて理解する。 0 テーマの設定 ① モチーフの設定 ② フレーズづくり ③ 空間・構成 ④ 曲の選定 ⑤ 衣装 ⑥ 照明 など		第2学期中間考查	○	○	○	○

	◎ プレ発表をする (テスト)	10 ・ 11 ・ 12	◎ プレ発表会をする。 ◎ 衣装をつけて発表する。 ◎ (舞台で発表するグループの選考をする)		第2学期 期末 考査	○	○	○	○
第3学期	◎ 舞台での発表会に向けての取り組みをする ◎ 自分達で発表会を企画・運営できるようにする	1 ・ 2 ・ 3	◎ 出場するグループは照明の効果的な使い方 を理解する。 ◎ 発表会に向けて、それぞれの役割を 理解し、実行する。		学年 末 考査	○	○	○	○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> ○各学期ともグループノートを提出させる。									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> ○1学期は個人でひとまとまりの動きが踊れるかテストする（ミニ発表会）。 ○2学期はオリジナルな作品が発表できるかテストする（プレ発表会）。 ○3学期は全体の発表会を協力して企画・運営できるかどうか。」									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
体育 選択種目Ⅰ	1単位	3学年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①グループの活動を通し、生涯体育につながる種目として、計画・実践できる力を養う。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	①オリエンテーション ②グループ分け ③④基本練習とルール ⑤⑥ゲーム練習と審判	4 ・ 5	授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。 フットサル・テニス・ゴルフ・バトミントン・バスケットボール・ソフトバレーの6種目から4種目を自由に選択し、ゲーム形式に試合ができるようになる。 各種目の特性を理解し、基本技能を身につけるルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようにする。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。		第1学期中間考査	○  ○			○  ○	○
	⑦⑧⑨⑩ゲーム  ※6月3週あたりから7月中旬 8月下旬から9月第3週あたりまで水泳授業となる	6 ・ 7 ・ 8	ゲームを楽しむなかで技術と戦術をみがきより精度を高める。		第1学期期末考査				○	
第2学期	※8月下旬から9月第3週あたりまで水泳授業となる ①オリエンテーション ②グループ分け	9 ・ 10	授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。 フットサル・テニス・ゴルフ・バトミントン・バスケットボール・ソフトバレーの6種目から4種目を自由に選択し、ゲーム形式に試合ができるようになる。		第2学期中間考査	○  ○				

	③④基本練習とルール ⑤⑥ゲーム練習と審判 ⑦⑧⑨⑩ゲーム	10 ・ 11 ・ 12	各種目の特性を理解し、基本技能を身につける ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけ それらおゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安 全に留意したゲームをめざす。  ゲームを楽しむなかで技術と戦術をみがきよ り精度を高める。					○		○	○
第3学期		1 ・ 2 ・ 3									
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> 各学期末に班ノートを提出させる											
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> ・授業の中でのゲームスキル、及び積極性・協力心・態度などで評価する。 ・基本技能、応用技能ができていないか・ゲームコントロールができていないか・みんなと協力しているか・ルールを正しく理解しているか・自分の技能に応じてフォーメーションを工夫できているか。											

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
音楽Ⅲ	2単位	第3学年音楽選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①歌唱・器楽・鑑賞などを通して、音楽をより身近なものにする。 ②音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ③音楽の歴史をふまえ、現在の音楽について考える力を身につける。 ④アンサンブルを通じて、人と協力し生きてゆく力を身につける。
使用教科書・副教材等	教育出版『音楽Ⅲ』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	歌唱 器楽アンサンブル（リコーダー）	4 ・ 5	☆ 1・2年次の既習曲を用いて、歌うことの楽しさを感じるとともに、新しい仲間と音楽を通してクラス作りをする。 ☆ ソプラノ・アルトを用いたリコーダー4重奏において、ハーモニーの美しさを感じるとともに、合奏の基礎をつくる。		第1学期中間考査	○	○	○	
	合唱 器楽アンサンブル（リコーダー）	5 ・ 6	☆ 声によるハーモニーづくりの基礎を身につける。 ☆ グループでリコーダーアンサンブルに取り組み、曲の構成や曲想にも目を向け、表現の工夫を目指す。		第1学期期末考査	○	○	○	
	鑑賞	6 ・ 7 ・ 8	☆ 楽曲の種類や演奏形態についての理解を深め、それぞれの特徴や魅力を感じる。			○			○
第2学期	合唱 器楽アンサンブル（ギター）	9 ・ 10	☆ 2部合唱の楽しさを味わう。 ☆ 旋律とコードによるアンサンブルにおいて、ギターアンサンブルの楽しさを味わう。		第2学期中間考査	○	○	○	



	<p>合奏</p> <p>鑑賞</p>	<p>10 ・ 11 ・ 12</p>	<p>☆ 様々な楽器を用いて、クラス全員による合奏に取り組み、協力して創り上げる姿勢を身につける。</p> <p>☆ 合奏の楽しさを味わう</p> <p>☆ 1学期の内容に加え、近代・現代の音楽の理解を深める。</p> <p>☆ ポピュラー音楽の理解を深める。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>第2学期期末考査</p>
<p>第3学期</p>	<p>グループ研究・発表</p>	<p>1 ・ 2 ・ 3</p>	<p>☆ グループを編成し、歌唱・器楽のどちらかにおいて研究・発表を行う。聴く姿勢にも注意を向ける。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>学年末考査</p>
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>毎時間の演習プリント・その他プリント課題等</p> <p>学期ごとにファイル提出</p>										
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <p>実技試験（授業で取り扱った曲より抜粋）、提出課題、毎時間の授業に取り組む姿勢、出席状況などを総合的に評価する。</p>										

教科名 [ 芸術 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
美術Ⅲ	2単位	3年 2～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①美術の幅広い創造活動を体験させること ②美的体験を豊かにすること ③美術を愛好する心情と、それを生活に生かす態度を育てること ④感性を高め、美意識を磨くこと ⑤講義・実習を通して個性豊かな美術の能力を高める。
使用教科書・副教材等	光村図書『美術3』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	手のスケッチ、 デッサン 手の表情  手の塑像制作 テラコッタ粘土 (焼成)	4 ・ 5	○ 手で喜怒哀楽のポーズを作る。 ○ 手のデッサンを通して、人物表現の楽しさを感じ取る。  ○ 手の実在感や躍動感を塑像という立体造形の表現として表す。 ○ 塑像表現における素材と道具に関する知識を広め、計画的に制作できるようにする。		第1学期中間考查	○	○	○	○
	油彩画制作 「手」をテーマに 10号程度	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	○ 手のデッサン、立体表現の集大成として、油彩画の制作をする。  ○ 油彩画の特質を生かした、さまざまな技法を試す。		第1学期期末考查	○	○	○	○

第2学期	パラパラマンガ アニメーション 動画的表現	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本来動かないものが、なぜ動くのかについて考察し、理解を深める。</li> <li>○ アニメーションと映像の歴史を学ぶ。</li> <li>○ 素材やテーマを工夫し、個性豊かな表現をする。</li> </ul>		第2学期 中間 考査	○	○	○	○
	混合技法に挑戦 ミクストメディア 模造紙大	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コラージュ・モンタージュ・フロッタージュ・デカルコマニー等。</li> <li>○ 色々な表現技法を用いて、不思議で意外な世界を表現する。</li> <li>○ 大画面に描くことによって迫力のある作品を作る。</li> </ul>		第2学期 期末 考査	○	○	○	○
第3学期	サンドブラスト パブリラー制作	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ サンドブラスト技法の体験。</li> <li>○ 工芸的なデザインの学習。</li> </ul>		学年 末 考査	○		○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 各作品、演習プリント等									
【1・2・3学期における評価方法】 各作品、演習プリント、平常点等を、総合的に判断する。									

教科名 [ 芸術 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
書道Ⅲ	2単位	選択 3年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ②日本や中国の書の文化や伝統についての理解を深め、尊重する態度を高める。 ③感性をさらに磨き、個性豊かな書の表現力と鑑賞力を高める。
使用教科書・副教材等	大阪書籍『高校書道Ⅲ』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	の工夫 芸術的な感受や表現	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	◎ 授業内容アンケート  ◎ 隷書の学習 ・ 隷書の基本用筆と特徴 ・ 臨乙瑛碑3種類 ・ 姓名を隷書風に書く  ◎ 姓名五書体検字プリント	4 ・ 5	・ 授業開始に際し関心・意欲・態度を知る。  ・ 隷書の書道史上の意義を理解する。 ・ 基本用筆法と特徴を理解し、表現する。 ・ 臨書により隷書の結構法に慣れる。  ・ 書体辞典の使い方を理解し正確に検字する。 ・ 今後の手引きになるので、ていねいに筆字をとり資料をつくることで各書体の特徴理解を深める。 ・ 姓名を書くことにより、各書体の用筆法を整理し表現力を高める。	アンケート          書体辞典 プリント	第1学期 中間 考查	○	○	○	○
	◎ 姓名を六書体で書くⅠ（半紙四字サイズ） ◎ 姓名を六書体で書くⅡ（芳名録・細字）  ◎ 表札草稿  ◎ 表札を作る。 ・ 刻法 ・ 焼板 彩色  ◎ 文字染め創作Tシャツ ・ 草稿・型紙彫り・染	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・ 書体の特徴を理解し統一した表現が出来るように意識して書く。  ・ 細字でも書体の特徴を明確に表現できる力量をつける。 ・ 練習量のチェックをし自分の技量との葛藤を大切にす。 ・ 表札に使う書体を絞り込む。  ・ 効果的に立体化する刻し方を選び手順を追って計画的に完成させる。 ・ 主体的に独自の工夫を楽しむ。  ・ 完成までの手順の理解をきちんと確認する。 ・ 表現効果を考え、手を抜くことなく、段階を追って完成までの工程を成し遂げる。	表札展示          創作Tシャツ 展示		第1学期 期末 考查	○	○	○

第2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作Tシャツ製作者カードを書く &lt;展示&gt;</li> <li>◎ 第33回書道コンクール出品作品を書く。</li> <li>・各自で出品法帖を決め練成する。</li> <li>◎ 新聞の折り込みチラシなどでエコ手漉き葉書を作ろう。</li> <li>◎ 葉書作品を書く。</li> </ul>	9・10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作意図がわかるようにカードを書いて完成Tシャツを展示する</li> <li>・3年間の集大成であるので、各自出品法帖を決め書き込み作品の完成度を高める。</li> <li>・作品の練度をより高め、達成感を得る。</li> <li>・作業手順を理解する。</li> <li>・興味を持って意欲的に取り組む。</li> <li>・手漉きの風合いを生かして書作する。</li> </ul>	Tシャツ展示  佳作品は額に入れ展示	第2学期中間考査	○	○	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 文字を使わず点と線でイメージを表現しよう。</li> <li>「エネルギー・激・強」</li> <li>「デリケート・静・弱」</li> <li>◎ 大字一字作品</li> <li>・淡墨      ・濃墨</li> <li>◎ 批評会</li> <li>◎ 細字・年賀状</li> <li>◎ 和紙20枚を染める。(技法4種と墨流しを自由に組み合わせ)</li> </ul>	10・11・12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の意味に頼らない純粹表現ができるよう多様な線質、点の筆触にこだわって表現活動を試みる。</li> <li>・体全体が筆と一体化し、スケールの大きな筆の動きができるよう思い切って書く。</li> <li>・気持ちにかなった1字を選び、これまでに身につけた総合的な表現力を発揮して書く。</li> <li>・次の製作のステップになるよう、プラス面マイナス面の両視点から批評し合うことで、仲間を評価し励ます力をつける。</li> <li>・実用的で芸術性をプラスした年賀状を工夫する。</li> <li>・1, 2年で実践した技法をステップアップさせ卒業制作用の紙を染めておく。</li> </ul>	佳作品は第59回高校展に出品	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 第59回大阪府高校書道展鑑賞レポート</li> <li>◎ 漢字仮名混じり文創作『卒業記念作品』染紙20枚に作品完成</li> <li>◎ 表具・パネル貼り</li> <li>◎ 実用書式 慶弔の上書</li> <li>◎ 姓名六書体実技テスト</li> </ul>	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を持って鑑賞し視野を広げる。卒業後の作品制作や鑑賞への意欲を喚起する。</li> <li>・卒業制作にふさわしい完成度の作品を総合的に工夫する。</li> <li>・協力して、ペアでパネル製作の作業をする。</li> <li>・慶弔の慣習を理解し、実用的な筆写力を高める。</li> <li>・姓名六書体を完全に覚え、細字自運で書くことで3年間の書道の学習を締めくくる。</li> </ul>	全卒業作品展示	学年末考査	○	○	○	○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> 作品は基本的に毎時提出。合格制。 練習作品とプリントもすべてファイルにとじ、各考査前に提出。 2学期に書道コンクール出品。鑑賞レポート。									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> 毎時の提出作品。各考査前に提出のファイル。プリント記入状況。授業時の取り組み状況の観察。自己評価表。感想文。等これらを総合的に評価する。									

教科名〔 英語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
英語Ⅱ	2単位	3学年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	① ことばと人間との関係やことばと社会との関係など、広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。 ② ことば、文化、民族の多様性とその共存、自然と人間との共生を国際理解の基本理念とし、国際感覚の育成と国際協調の精神の育成を図る。 ③ 英語の基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指す。
使用教科書・副教材等	三省堂「VISTAⅡ English Series Step Two」 啓隆社「OASIS 1」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						態度・関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	Lesson 1 Come Back Again	4 ・ 5	・小笠原の最大の島、父島で行われているアオウミガメの人工孵化放流を取り上げ、自然保護について考える。	・不定詞 (seem to do ) ・現在完了の受身 (have been done )	第1学期 中間 調査	○	○	○	○	
	Lesson 2 Friedensdorf International  (OASIS 1) Lesson 12		・「ドイツ国際平和村」を私たちに紹介した女優、東ちづるの話を通して、現代の問題を考える。  ・必要な情報を聞き取る。	・関係副詞 ( Where, When )  ・態						
	Lesson 3 Nunavut  (OASIS 1) Lesson 13	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・イヌイットの歴史や、彼らの暮らす土地に触れながら、先住民族として初めて実質的な独立自治権を獲得した彼らの開かれた将来について考える。	・倒置 (So do I ) ・分詞構文	第1学期 期末 調査	○	○	○	○	
	Lesson 14		・話の要点を聞き取る。	・不定詞						
	Lesson 15  Lesson 16		・手紙文を聞き取る。  ・会話に続く応答文を選ぶ。	・不定詞  ・分詞  ・動名詞						
第2学期	Lesson 4 Sushi  Lesson 5 My Favorite Musician	9 ・ 10	・日本文化について、より理解を深めながらそれを外国の人に発信する。  ・ソロ・パーカッションニストのエヴェリン・グレニーが何故自分は「障害」があるとも、「克服」したとも考えていないのかについて考える。	・進行形の受身 ( is being done )  ・仮定法過去 ・知覚動詞 (hear + O + done )	第2学期 中間 調査	○	○	○	○	

	(OASIS 1) Lesson 17		・ 天気を聞き取る。	・ 関係代名詞					
	Lesson 6 Nazca Lines		・ ナスカの地上絵は何を表しているのかを考えるとともに、その謎を解くことに取りつかれたドイツ人女性マリア・ライへの研究と保護活動について知る。	・ 関係代名詞 ・ Some ～,Others		○	○	○	○
	(OASIS 1) Lesson 18	10	・ 話者の意図を聞き取る	・ 形容詞と副詞	第 2 学期 期末 考 査				
	Lesson 19	11	・ 会話に続く応答文を選ぶ	・ 比較					
	Lesson 20	12	・ 話の状況・場面を聞き取る	・ 比較					
	Lesson 21		・ 話の要点を聞き取る	・ 接続詞					
第 3 学期	ENJOY READING The Tale of Bedd Gelert  (OASIS 1) Lesson 22	1	・ 飼い主と猟犬にまつわる悲しい民話を音読して、登場人物の気持ち、クライマックスの緊迫感を味わう。  ・ 会話に続く応答文を選ぶ	・ 朗読  ・ 前置詞	学 年 末 考 査	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】 本文についての英文・訳・説明などを書き加えたノート。 課題プリント。</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】 定期考査。 授業への取り組み姿勢。 ノート提出、課題プリント提出など総合的に評価する。</p>									

教科名 [ 英語 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
ライティング	2単位	3年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①2年生で学んだ英文法の知識を復習する。 ②基本例文を暗唱させ、知識の定着をはかる。 ③自分のことを簡単な英語で表現できる力をつける。
使用教科書・副教材等	DAILY ENGLISH WRITING (IKEDA SHOTEN) プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
第1学期	Lesson1	4 ・ 5	1.文の基本パターン (1)	各課題文の 試訳・暗唱  暗唱文の ノート写し  過去・現在・ 未来の確認	第1 学期 中間 考査	○	○	○	○
	Lesson2		2.文の基本パターン (2)						
	Lesson3		3.「現在形」「過去形」を用いた表現						
	Lesson4		4.「未来形」「進行形」を用いた表現						
	Lesson5		5.「完了形」を用いた表現 (1)						
	Lesson6	6 ・ 7 ・ 8	6.「完了形」を用いた表現 (2)	各課題文の 試訳・暗唱  暗唱文の ノート写し  動詞の過去 分詞の復習  助動詞の習得	第1 学期 期末 考査	○	○	○	○
	Lesson7		7.「受け身」の表現 (1)						
	Lesson8		8.「受け身」の表現 (2)						
	Lesson9		9.「助動詞」を用いた表現 (1)						
	Lesson10		10.「助動詞」を用いた表現 (2)						
第2学期	Lesson11	9 ・ 10	11.「不定詞」を用いた表現 (1)	各課題文の 試訳・暗唱  暗唱文の ノート写し  ～ing の復習	第2 学期 中間 考査	○	○	○	○
	Lesson12		12.「不定詞」を用いた表現 (2)						
	Lesson13		13.「原型不定詞」を用いた表現						
	Lesson14		14.「分詞」を用いた表現						
	Lesson15		15.「動名詞」を用いた表現						



	Lesson16 Lesson17 Lesson18 Lesson19 Lesson20	10 ・ 11 ・ 12	16. 「不定詞」と「動名詞」の使い分け 17. 「比較」の表し方（1） 18. 「比較」の表し方（2） 19. 「関係代名詞」を用いた表現 20. 「関係副詞」を用いた表現	各課題文の 試訳・暗唱  暗唱文の ノート写し  ～er, ～est の 復習  関係詞の理解	第2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○
第 3 学 期	Lesson21 Lesson22 Lesson23 Lesson24 Lesson25	1 ・ 2 ・ 3	21. 「仮定」を含む表現 22. 「否定」を含む表現 23. 「句」を用いた表現 24. 「節」を用いた表現（1） 25. 「節」を用いた表現（2）	各課題文の 試訳・暗唱  暗唱文の ノート写し  動詞の時制を 確認	学 年 末 考 査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ノート、暗唱テスト、確認テスト、各種課題									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査、小テスト、ノート等の提出、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。									

教科名 [ 英語 ]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
英語演習	2単位	3学年 1～6組 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>長文・会話文・文法・リスニングの演習問題を通して、英語の基礎力と応用力を養う</li> <li>Native との Team Teaching により Reading, Speaking の基礎力をつける</li> </ul>
使用教科書・副教材等	啓隆社「OASIS 2」

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
第1学期	Lesson 1	4 ・ 5	・ 会話文を読む。	・ 時制	第1学期 中間 考查	○	○	○	○	
	Lesson 2		・ 主人公の外見的特徴を読み取る。	・ 時制		○	○	○	○	
	Lesson 3		・ スピーチの原稿を読む。	・ 時制		○	○	○	○	
	Lesson 4		・ ペットと人間の関係を読み取る。	・ 助動詞		○	○	○	○	
	Lesson 5	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・ 会話文を読む。	・ 助動詞	第1学期 期末 考查	○	○	○	○	
	Lesson 6		・ 出来事を年代順に並べる。	・ 受動態		○	○	○	○	
	Lesson 7		・ 宇宙飛行士の体の変調を読み取る。	・ 受動態		○	○	○	○	
	Lesson 8		・ 医学と音楽との関係を読み取る。	・ 不定詞		○	○	○	○	
第2学期	Lesson 9	9 ・ 10	・ 太陽と月と星について考える。	・ 不定詞	第2学期 中間 考查	○	○	○	○	
	Lesson 10		・ ブラウンさんと女性の対話の意味を考える。	・ 分詞		○	○	○	○	
	Lesson 11		・ 睡眠の段階とそれぞれの特徴を読み取る。	・ 分詞		○	○	○	○	
	Lesson 12		・ 会話文を読む。	・ 動名詞		○	○	○	○	

	Lesson 13 Lesson 14 Lesson 15 Lesson 16	10 ・ 11 ・ 12	・ドナーカードについて読む。  ・スピーチの原稿を読む。  ・自由の女神にまつわる話を読む。  ・森が果たす役割を読み取る。	・動名詞  ・関係代名詞  ・関係代名詞  ・比較	第2学期 期末 考査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第3学期	Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19	1 ・ 2 ・ 3	・宇宙探検者の話を読む。  ・友について考える。  ・会話文を読む。	・比較  ・前置詞  ・接続詞	学年 末 考査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> 本文について解説を書き加えたテキスト。 問題の答え合わせができているテキスト。 適宜配布するプリント。									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> 定期考査。 リーディング。 スピーキング。 課題プリント。 授業への取り組みなど総合的に評価する。									

教科名〔 情報 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
情報A	2単位	第3学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	問題解決にコンピュータを利用する際の必要な考え方を理解させる。 情報技術の面から、情報社会を考え、情報社会に参画する態度を身につける。
使用教科書・副教材等	第一学習社 情報A/068 Office 2003

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	オリエンテーション コンピュータ実習	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードを使用して、ワープロの実習を行う。</li> <li>・第3章 Word2003 1～19</li> <li>・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。</li> <li>・実習を行う上で体裁の良い文章を作成していく。</li> <li>・基本的な操作を学ばせた後に応用として、カレンダーや個人の時間割表などの課題を与える。</li> <li>・実習が中心であるので、定期考査は行わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロの実習を中心に職業訓練もふまえて練習していく。</li> <li>・Office2003</li> <li>・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。</li> </ul>	第1学期 中間考査	○	○	○	○
	第2章 情報の収集・ 発信と情報機器の活用 1節 インターネット  2節 ウェブページの しくみ	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータネットワークのしくみについて理解する。</li> <li>・電子メールの Subject:や本文の適切な形、電子メールが配送されるしくみについて学習する。</li> <li>・電子メールの送受信など、具体的な操作方法を学習する</li> <li>・WWW上の検索サービスで、たどるディレクトリや入力するキーワードの適切なものを選ぶ方法を学習する。</li> <li>・WWW上の検索サービスを利用して、必要な情報をさがしてみる。</li> <li>・ブラウザとウェブサーバ、ドメイン名やURLなどの用語を学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。</li> </ul>		第1学期 期末考査	○	○	○

第2学期	コンピュータ実習	9・10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エクセルを使用して、表計算の実習を行う。</li> <li>・第4章 Excel 2003 1~14</li> <li>・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。</li> <li>・実習を行う上で体裁の良い表を作成していく。</li> <li>・実習が中心であるので、定期考査は行わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算の実習を中心に職業訓練もふまえて練習していく。</li> <li>・Office 2003</li> <li>・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。</li> </ul>	第2学期中間考査	○	○	○	○
	第2章 情報の収集・発信と情報機器の活用 3節 情報の収集・発信における問題点 第4章 情報機器の発達と生活の変化 1節 情報機器の発達とそのしくみ	10・11・12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーについて学習する</li> <li>・著作権について学習する。</li> <li>・メディアによる特性の違いについて学習する。</li> <li>・ネットワークコミュニケーションで配慮すべきことについて、学習する。</li> <li>・コンピュータの高性能化について理解する。</li> <li>・コンピュータや情報機器のしくみについて、学習する。</li> <li>・アナログ信号とデジタル信号の違いと特徴について学習する。</li> <li>・データのデジタル化のしくみについて理解する。</li> <li>・ネットワークのしくみと活用法について学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。</li> </ul>	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	コンピュータ実習	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使用して、プレゼンテーションの実習を行う。</li> <li>・第5章 PowerPoint 2003 1~12</li> <li>・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。</li> <li>・基本的な操作を学ばせた後に応用として、テーマ（一例：自己紹介）を決めさせて、全員の前で実際にプレゼンテーションの発表会を行う。</li> <li>・実習が中心であるので、定期考査は行わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションとは、情報を確実にわかりやすく伝える一つの方法であることを理解させる。</li> <li>・Office 2003</li> <li>・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。</li> </ul>	学年末考査	○	○	○	○
<b>【1・2・3学期における課題・提出物等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に実習を行っている期間については、課題、作品の提出を求める。</li> <li>・主に座学を行っている期間については、プリント、ノートなどの提出を求める。</li> </ul>									
<b>【1・2・3学期における評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に実習を行っている期間の評価については、課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。</li> <li>・主に座学を行っている期間の評価については、定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。</li> </ul>									

